

令和元年度 第1回美祢市廃棄物減量等推進審議会 会議結果

日 時：令和元年11月6日（水）9時55分～11時10分

場 所：美祢市保健センター（1階健康増進室）

出席者：廃棄物減量等審議会委員（今井会長ほか委員13名）

※出欠席については、別紙1のとおり

事務局（杉原市民福祉部長、古屋生活環境課長ほか4名）

合計20名

要旨（概略）

1 開会

古屋生活環境課長により開会（9：55）

2 あいさつ

今井会長よりあいさつ

3 職員自己紹介

出席職員自己紹介

4 諮問書交付

杉原部長が今井会長に諮問書を交付

5 議事

◆付議事項

（1）美祢市一般廃棄物処理基本計画の変更について

事務局より資料に基づき説明

【質問】

基本計画は概ね5年毎に改定されるべきところが改定されなかったのは何故か。

【事務局の回答】

本審議会が平成30年3月に再開されるまでは休眠しており、本来は審議会に諮って改定していくべきは出来なかった。今回の機会を捉えて改定をしたということになった。

【質問】

衛生センターが昭和63年の施設で老朽化しているとのことだが、建替の場所の検討はしたのか。

【事務局の回答】

建物の建替は行わない。現在の建物や地下にある水処理用の水槽などを活か

して、機械の設備や電気の配電盤などを換えていく計画としている。

【質問】

電気系統とかを換えていくと言うことは、一時的に汚水の処理が止まることになるのか。

【事務局の回答】

処理を止めるわけにはいかないので、処理をしながら段階的な工事を行うように計画している。

【質問】

新しい基本計画は、令和2年3月に出来るということで良いのか。

【事務局の回答】

来年の2月から3月に予定している次回の審議会で、基本計画の案をお示ししたいと考えている。

(2) 平成30年度廃棄物処理の実績について

事務局より資料に基づき説明

【質問】

会議資料3ページのグラフで示している平成30年度の6,714トンと、2ページのカルストクリーンセンターの廃棄物搬入量6,509トンの整合性はどうかになっているのか。

【事務局の回答】

6,714トンは家庭系ごみの可燃ごみと不燃ごみを足した数になる。事業系ごみ667トンを足して美祢市のごみの総量が7,381トンとなる。

【質問】

同じく会議資料3ページの人口1人1日当たりのごみ排出量が、平成28年度と29年度は微妙に増えているが、平成30年度は820グラムと減ってきている。平成30年度の事業系ごみは増えているので、家庭系ごみの方で頑張っただけ減ったということになるが、新たなごみ処理の有料化等を行ったのか。

【事務局の回答】

特に新たな取組を行ったわけではないが、市民の意識が進んできた結果なのではないかと考えている。

【質問】

家庭系ごみと事業系ごみの処理経費と手数料はどうなっているのか。

【事務局の回答】

処理経費については、家庭系と事業系で分けて計算していないので不明である。手数料については、不燃物は家庭系と事業系は同じであるが、カルストクリーンセンターの搬入手数料は家庭系が100キログラム未満200円、事業系が100キログラム未満1,000円としている。

【質問】

家庭系のごみは、自分でどんどん持ち込まないというイメージがあるがカ

ルストクリーンセンターはどうなっているか。

【事務局の回答】

大型の家具やじゅうたんのよう粗大ごみを自分で持ち込むケースが増えてきている。

【質問】

カルストクリーンセンターの事業系の 100 キログラム未満 1,000 円という手数料は、近隣の市町と比較するとどうなのか。

【事務局の回答】

家庭系と差を付けているので、近隣市町と大きな違いはないと考えている。不燃物の家庭系と事業系が 100 キログラム以下 100 円と近隣と比較して安いのではないかと考えている。

(3) 美祢市の廃棄物処理の統一（素案）について

事務局より資料に基づき説明

【質問】

美祢地域は無色透明の袋にするということであるが、指定容器よりも安いということなのか。

【事務局の回答】

ホームセンターやスーパーで市販している物の方が指定容器よりは安いと考えている。ただし、現在の固形燃料化できない指定容器の袋の厚みの仕様が 0.06 ミリメートルとしており丈夫なものとしている。袋が破れることを防ぐため、概ね何ミリメートルの厚み以上とかの基準を周知する必要があると考えている。

【質問】

無色透明の袋で不燃物を出すということだがごみの判別が付くのか。

【事務局の回答】

現在の美祢地域の不燃ごみの収集日は、缶類・金属類とびん類・プラスチック類の 2 通りとしているが、変更後は缶類、びん類 3 色、金属類、プラスチック類 6 通りとなるので、缶類の日であればごみステーションに缶類しか出ないことになる。市民への周知が十分に図れば変更による混乱は起きないと考えている。

【質問】

指定容器の厚みが薄すぎると、固形燃料化の際に支障となるのか。

【事務局の回答】

他の自治体と比べると、分別方法も関係しているが若干厚い仕様としている。厚さは特に固形燃料化する際に問題にはならない。

【質問】

ホームセンターで無色透明の袋を買う際に、厚みを書いてあれば良いが、安売の物は材料費を安くするため袋が薄くなるため、どうやって市民が選べるように周知していくかを考えなければならないと思う。0.01 ミリメートル厚みが違うから収集できないということにはならないとは思いますが、収集の際に破れる恐れがあることを懸念しているのか。

【事務局の回答】

特にびん類は重量がかさむため、袋が伸びて破れることを危惧している。

【質問】

いろいろな無色透明な袋でごみが出されると思うが収集業者はどうやって袋を見極めるのか。持ち上げて破れた場合は収集しないのか。それと、1本とか2本とかを家庭用のビニール袋で出してくる場合もあると思うが、どうやって見極めるのか。

【事務局の回答】

収集できる範囲は収集するが、あまりにも難しいようであれば、収集できませんのシールを貼ることになると思う。無色透明の袋に変えてみないと分からないが、美祢地域は現在指定容器で収集をしている。固形燃料化できない指定容器は大と小の2種類しかないので、家庭にもよるとは思うが毎月ごみ出しをする家庭もあるだろうし、半年くらいかけて指定容器いっぱいになるまで貯めて出す家庭もあると思われる。無色透明の袋に統一することによって、美東・秋芳地域のよう毎月ごみ出しが出来るようになることを目指している。問題が生じればその都度対応していきたいと考えている。

【質問】

収集を行っている立場からすると迷う場合がある。いちいち全てを市に聞くわけにもいかない。収集業者の裁量に委ねるしかないとは思いますが、迷うと時間がかかってしまう。ごみを収集せず置いた場合は、置かれた者はどうして置かれたのが疑問に思うだろうし、収集する者としては理由があって置くわけであるから、目視で確認できるのが良いと思う。

【事務局の回答】

指定容器をやめて無色透明の袋にするのは、市民の負担の公平性を確保するための大前提である。その目標に向かって無色透明の袋にするということを前回の審議会で議論を行った。その方法については、実際に市民の皆さんにどこまで周知をするかによって実行力も上がってくるかと思われるので、周知をしっかりとやっていくことが課題と考えている。たぶん無理だろうからやらないということは、今まで美祢地域の皆さんが美東・秋芳地域の皆さんよりも手数料の負担を多くされているので、その現状を是正するということは大前提となる。

【質問】

美東地域は建屋タイプのごみステーションなのでコンテナを中にしまっているが、秋芳地域はそうでないので外にコンテナを畳んでいたり、そのまま置いたりしてある。秋芳の場合、コンテナが劣化した場合はどうしているのか。ごみが散乱する恐れがあると思われるが。

【事務局の回答】

基本的には、コンテナやごみステーションの管理は自治会等それぞれの地区が行うことになる。あまりにも管理の状況がひどいようであれば、市が自治会等に指導ということになる。

【質問】

手数料負担の公平化のため、無色透明の袋にするということであるが、現在の指定容器は市販のビニール袋と比べて高い物なのか。

【事務局の回答】

固形燃料化できない（大）が一枚 15 円、固形燃料化できない（小）が一枚 10 円となっている。市の指定容器よりは安いものと考えている。次の審議会までにホームセンター等でどういう袋がどれくらいの価格で販売されているかを調べてどれくらいの負担になるのかをお示ししたい。

【質問】

今の指定容器はどれくらいの容量なのか。

【事務局の回答】

固形燃料化できない（大）が 30 リットル、固形燃料化できない（小）が 20 リットルとなっている。

【質問】

20 リットルよりも小さな袋を作る気はないのか。

【事務局の回答】

過去、特にびんの収集について小さな袋を作って欲しいという要望があったこともあるが、無色透明の袋に変えることによってごみを捨てる人が袋の大きさを選べることになるので、小さい袋を作ることは考えていない。

【意見】

びん類であれば少量しか出さないのであれば透明の小さな袋で出すことが出来るので、自由度が広がることになる。ただし、あまり薄い袋で出してしまうと破れてしまうのでそこが問題であるが、普通のビニール袋であれば大丈夫だと思う。固形燃料化できない（大）の一枚 15 円よりは安く買えるだろうということで、十分の一とかにはならないだろうが、市民の負担軽減にはつながると考えられる。

【質問】

びんとかを少量で出すということで、2~3 本の袋がごみステーションにたくさん出されると、実際に収集する側で考えると大変だと思うがどう考えているのか。コンテナに積む方が良いのではないかとも思うが。

【意見】

コンテナでも 1 本しか入っていないということもある。

【意見】

実際に運用を始めると、どういう感じが出てくるか分かってくると思う。今のところは想像でこうなるかもしれないというところなので、やってみなければ分からない。

【意見】

びんの場合は重量が問題になると思う。今の 30 リットルの袋でもかなりの重さになる。無色透明の袋にする場合も、30 リットル以内の袋にするとかにしないと袋が破れてごみが散乱することになる。

【意見】

大きさ制限が必要である。小さい袋がたくさん出るというのも問題だが、100リットルの袋にいっぱい詰め込むということは無いとは思いますが、懸念はあるので何らかの上限を設定すべきである。今までの実績でいうと30リットルとなるが、これを超えて45リットルとかを認めるかどうか事務局は案を考えて欲しい。

【意見】

実際に収集する業者が取りやすいようにすべきである。市民もごみを出しさえすれば良いというものでもない。

【意見】

実際にごみ収集をやってみると身に染みて分かると思う。

【質問】

美祢地域のように指定容器で出されたびん等はそのまま収集しているのか。

【回答及び質問】

袋のままリサイクルセンターに運んでいる。センターで袋を裂いて中のごみを出している。先程の話のように、小さい袋がたくさん出てくるといことになるとうと袋を裂く手間がかかることになる。センターの運営を考えなければいけないのではないか。

【事務局の回答】今はびんの収集日であればセンターに3色全て集まってくるが、無色透明の袋に変える際は、1つの色しか入ってこないようにしたいと考えている。

【議事の総括】

3番目の議題については統一案により、早いものでは来年4月から開始ということで実際にやっていきながら微修正を行っていくということで進めることとしたい。

【その他事務局より】

審議会委員の任期が来年2月末までとなっている。次回の第2回の審議会については、極力任期中の2月中に開催したいと考えているが、3月に開催となる可能性もある。委員の皆様方におかれては、是非とも次期の任期も留任をお願いしたい。

6 部長あいさつ

杉原部長があいさつ

7 閉会

古屋生活環境課長により閉会（11時10分）